〈研究ノート〉

ラテンアメリカの女性教育研究の動向

松　久　玲　子

は　じ　め　に

本稿の目的は，ラテンアメリカの女性に関する教育の研究動向を分析することであり，女性教育とは，女性およびジェンダーに関する教育のことである。

本稿で検討したのは，1965年以降，最近までの30年間におけるラテンアメリカ地域の女性教育に関する論文および文献についてである。主に教育関係の研究論集 Comparative Education Review, International Education Review, Convergence，社会科学系の研究論集 Journal of Latin American Studies, Latin American Perspectives 等に掲載された論文，女性教育に関する研究書のなかからラテンアメリカを対象とした論文を検討した。対象とした論文は，英語，およびスペイン語で書かれた論文に限定した。フランス語圏，ドイツ語圏など他の言語圏においてもラテンアメリカの女性を対象とした研究が行われているが，地理的，政治的理由からラテンアメリカ地域への関心が強く，かつ女性学研究の発展しているアメリカ合衆国およびラテンアメリカ地域で自国を対象とした研究がラテンアメリカの女性教育研究では圧倒的多数を占めると考えられる。また，執筆者の言語能力の問題もあり，動向分析にあたり上記の2言語による論文を対象とした。ちなみに，日本においてラテンアメリカの女性教育を対象とした研究はほとんどない。日本の国際援助におけるラテンアメリカへの二国間援助の状況や，女性学研究での

ラテンアメリカ地域に関する研究がまだ十分進められていない現状に鑑み，教育学の分野においても女性教育研究の必要性を痛感させられる。

(1) 研究状況の概観

1975年の国際女性年メキシコ会議以降，ラテンアメリカの女性学研究は急速に発展した。それまでは，ラテンアメリカの女性のおかれた社会状況や教育に関してほとんど関心が示されなかった。

ラテンアメリカ地域には，キューバ革命における社会主義の流れを引く女性解放運動や，「5月広場の母親たち」[1]に象徴される反独裁政権の政治闘争の中で培われてきた行方不明者の母親や女性たちによって形成されてきた運動が存在し，ラテンアメリカのフェミニズム運動の基盤となっていた。しかし，女性の経済，社会的状況に関する研究は社会科学の分野では小さな部分を占めるにすぎなかった。国際女性年メキシコ会議が，こうした女性解放運動や女性学研究に大きな弾みをつけたことは明らかである。

ラテンアメリカにおけるジェンダーの問題は，まず労働市場におけるフォーマル，インフォーマルセクターの女性の労働状況，家内的な自給的生産における女性の役割，職業における性差別などの経済的問題に焦点が当てられてきた。近年の傾向として，家族の問題，家庭内暴力，経済危機を背景とした家族の生存における女性の役割がテーマとして取り上げられるようになった。教育学の分野では，ジェンダー概念に基づく社会化の過程における教育の役割や教育システムにおける女性の動態などに関する研究はわずかにすぎない。

教育学において，なぜジェンダー問題にわずかの関心しか払われなかったかについて，ネリー・P・ストロムキストは，次のように述べている。(Stromquist: 1992, p. 3-4) 1970年代までジェンダーの問題はほとんど意識にのぼらなかった。フェミニズム運動の過程で，教育が個人の活動能力におよぼす影響が認識されたが，一方で社会変革のためには労働市場を支配する不平等な構造の修正や女性自身の体の管理が優先された。さらに，ラテン

アメリカの教育学は本質的にまだ教育方法が主要な関心事であり，教育を社会科学の対象として取り扱う考えかたは比較的新しい。教育は，高度に政治的事実であり，支配的イデオロギーを生産し，社会的支配を遂行するという教育の役割に関する研究も存在するが（Carnoy and Smoff: 1990, Torre: 1990），全体として教育の政治的，社会的，文化的特徴を疑問や検討の対象としてこなかった。

最近30年間の女性教育研究を分野別にみてみたい。教育史では，女性史研究の興隆を背景としてメキシコの植民地時代を中心とした女性教育史研究が多く見られる。

また，1970年代以降，前述の国際婦人年メキシコ会議のための準備とその決議を経て，ラテンアメリカ各国で女性の教育状況を把握するための研究が開始された。各国別の女性の社会的地位に関する報告のなかで女性の教育状況に注意が払われ，国別に女性教育の状況を把握するための研究が開始された。さらに，メキシコ会議の中で第三世界の女性たちの問題がクローズアップされ，第三世界の女性の状況を把握する中で，ラテンアメリカの女性の教育的特徴として，男女の教育格差が他の第三世界地域と比べ少ないことが明らかにされた。

ラテンアメリカでは，1960年代から始まった中等，高等教育の拡大の過程で，女性の就学人口は急速に増大した。しかし，この女性の教育機会の拡大が女性の雇用機会の拡大に必ずしも結びついていないという問題が提起され，それを受けて教育と労働市場における女性の活動に関する研究が行われている。一方，経済発展と女性労働力の開発を結合する研究が国際機関の主導で進められている。教育と女性労働力の開発，女性の教育と雇用に関する研究が女性教育研究のなかで大きな部分を占めている。女性の技術教育や成人教育に関する研究も，女性の雇用拡大，地位の向上の文脈の中で行われている。

一方，学校の教育文化，隠されたカリキュラム，ジェンダー・イデオロギー等を問題とし，教育の過程で女性に何が起こっているかという疑問に答え

る研究は少ない。これらの問題を取り上げた研究としては，教科書分析や高等教育における女性の学習行動などが主要なテーマとなっている。

ノンフォーマル教育では，民衆教育という名で知られているラテンアメリカの成人教育が大きな比重を占めている。民衆教育の分野で女性を対象とした様々なプログラムがラテンアメリカ諸国で形成されている。これらのプログラムでは，既成の教育システムの中では実行が難しいジェンダー意識の変革をめざす教育の可能性を評価する研究報告が見られる。

(2) 女性教育史

女性史という概念の成立は1960年代後半のフェミニズム運動が起こってからのものであり，ラテンアメリカの女性史研究も比較的新しい分野である。1960年代後半からラテンアメリカの植民地時代を中心とした女性史研究がアメリカ合衆国の研究者によって開始された。(Asunción Lavrin: 1966, 1978, 1979, 1989, Verena Martinez-Alier: 1974, A. J. R. Russel-Wood: 1977, Silvia M. Arrom: 1985) これらの文献は，1980年代にはいり，スペイン語に翻訳されてメキシコで出版されたが，それと前後してメキシコにおいても植民地時代の女性史研究がいくつか発表された。(Pilar Gonzalbo Aizpuru: 1985, 1987, 1991, Jóse J. y María Vega: 1989, Josefina Muriel de la Torre; 1992) その研究の多くは，女性の教育を中心に据えた叙述的女性史である。

メキシコを中心としたアステカ，マヤの教育にについては，絵文書や古文書から再構築され，当時の女性像を描き出す中で，生まれた時から性別によって決定された役割を果たすように母親から娘に伝えられるという形式の教育が行われたことが明らかにされている (Enriqueta Tuñón Pablos: 1991)。スペインの征服以降，植民地となったラテンアメリカの副王領は，人種的にも階層的にも多様な社会であり，人種的に階層化された教育が貫徹していた。人種，階層を越えて唯一，共通する教育はカトリック教育だった。アイスプルの研究は，修道士や思想家たちによって書き残された16世紀か

ら19世紀にかけての植民地期の古文書や女性の心得をしたためた文書を提示することによって，女性のために理想とされる教育と現実の落差，教育の理論と実践の矛盾，社会的葛藤，変化する状況のなかで生きる当時の女性の姿を浮かびあがらせようとした。(Aizpuru: 1985) さらに，アイスプルは，支配者階級のスペイン人女性，植民地生まれの白人女性，白人と先住民の混血であるメスティソ女性，先住民女性の，人種，階層により異なる教育を取り上げ，植民地の支配構造のなかで女性のための教育機関がどのような役割を果たしたのかを記述している。植民地時代に女性のための教育機関だった修道院は，支配階級の女性にたいしては，支配構造を維持し特権を維持するための性の管理を行い，社会的に逸脱した女性たち，つまり寡婦や婚資を調達できないために結婚ができない女性の避難場所として機能していた。そこでの教育内容は本質的には重視されず，女性たちは女性らしい振る舞い，教理問答や裁縫，刺繍などを学んだ。植民地社会は，人種主義に基づく階層社会であり，この支配原理を内在化した教育は，教育機関のみではなく日常生活を含む教育の総体として，植民地の女性に影響を及ぼした。すなわち，支配原理としての人種主義を貫徹するため，支配階級の白人女性の特権化と囲い込み，農村や労働者階級の女性への搾取が常態化し，家父長制のもとでの階層による女性の分断支配が行われた。(Aizpuru: 1987)

アイスプルが女性の教育を日常生活を含めた総体としてとらえ，女性教育が植民地支配においてどのように機能したかをとらえようとしたのにたいし，ベーガは教育制度史の観点から，植民地メキシコの修道院学校の教育，富裕層の子女のための世俗のアミーガと呼ばれる私塾的教育，そして独立後の女子公立学校教育という教育システムの変遷を，世俗教育とカトリック教育の対立を軸に叙述している。(Vega: 1989)

ムリエールは，スペイン女性，アステカ，インカそして中米の先住民女性がスペイン人の征服以降，ラテンアメリカの植民地社会にどのように統合され，植民地文化の形成に貢献したかという観点から女性史を書いている。女性史の一部として女性教育に言及しているが，女性のための教育機関におけ

る教育内容や生活を描写することにより文化的統合の過程を論証している。(Muriel: 1992)

バーガンの論文は，メキシコ革命前後の女性教育について論じた数少ない論文のひとつである。(Vaughan: 1977) 資本主義社会の主要な特徴のひとつは，女性が第一に，日常的，世代的労働力の再生産をになう家事労働者であることである。ポルフィリオ・ディアス独裁政権時代から開始された従属資本主義経済の発展は，先進工業国と比べ資本蓄積が遅れたメキシコでは，女性の労働を家庭へ囲い込むことはできなかったが，女性を周辺的，低賃金労働におしやった。この時代に普及した公教育は，ブルジョア家族をモデルとして家庭における再生産を担う女性の役割を強化するイデオロギーを普及する役割を担った。ブルジョア階級の教育者のイデオロギーと男性労働者のイデオロギーが一致し，女性の労働市場における周辺化を促進した。メキシコ革命がブルジョア革命へ変質する過程を，当時の女性教育のイデオロギー形成の側面から明らかにした。

ラテンアメリカの女性教育史はほとんどが植民地時代のメキシコが中心で，地域的にも年代的にも研究に偏りが見られる。これは，資料的な制約によるものと思われる。比較的資料が保存されている植民地メキシコの教会，修道院の一次資料を使った研究が進んでいるが，他のラテンアメリカ地域に関してはほとんど研究が進んでいない。また，女性の教育に関する論述が，必ずしもフェミニズム的な歴史観をもっているわけではないことは言うまでもない。フェミニズムの視点から歴史を再構築するという試みは，まだ十分とは言えない。そのなかで，アイスプルの研究は，植民地時代のさまざまな人種，階層の女性への教育を検証することによって，女性の分断支配という側面から植民地の支配機構を明らかにした点で，高く評価できる。

(3) 女性の就学について

ラテンアメリカの女性教育は，第三世界の女性教育の枠組みのなかで考察され，ラテンアメリカ諸国の教育状況を，アジア，アフリカと比較して特徴

づける研究が行われてきた。(Elliott and Kelly: 1980, Stromquist: 1990, King: 1993, Conway and Bourque: 1993)

ラテンアメリカの女性の教育状況は，識字率，就学率を指標として見た場合，他の第三世界諸国と比較して男女の教育格差が少ない。しかし，経済危機や貧困にみまわれている国々や貧困と言語の障害が先住民の教育制度への参入を妨げている農村地域では，男女の教育格差が大きい。女性の教育への参入に最も影響を与えたのは，1960年以降の教育制度の拡大，都市化，雇用機会の増加である。(King: 1993, p. 175-210) 特に，1960年以降の教育制度の拡大にともなう女性の就学率の増大は，目を見張るものがあった。

ブラスラブスキーは，識字率から成人女性の置かれた社会状況と教育状況を把握しようとした。一般的傾向として非識字率は減少しているが，国により非識字の基準が異なり，実際には相当数の非識字者が存在するだろうと述べている。ラテンアメリカを全体的にみると，男女の識字格差は次第に減少しており，成人識字人口の増大の過程で男女の格差は消滅し始めていることを，1950年，1960年，1970年の非識字率のデータに基づき明らかにしている。次いで，ブラスラブスキーは，フォーマル教育において女性が占める地位を分析している。就学においても男女の格差は少ない。ほとんどの国で初等教育の就学率は男女とも同じである。中等教育では，女性の就学率が男性を上回る国もある。初等，中等教育とも，留年率は女性が男性より少ない。高等教育は，全般に男性が優位であるが，これは家庭での役割が女性の高等教育への参入を抑制しているためである。(Braslavsky: 1984a)

こうした女性の教育状況を各国の経済発展と結びつける試みがなされた。ラテンアメリカ諸国の中でも，国により女性の教育状況に大きな差がある。非識字率を指標としてみると，第1グループは，アルゼンチン，チリ，コスタリカ，ウルグアイなどで，1960年代にすでに非識字率は10%以下で，女性の教育レベルが高い。第2グループは，ブラジル，コロンビア，エクアドル，メキシコ，ペルー，ベネズエラなどで，1980年代に非識字率は10-20%に減少したが，第1グループに比べ教育拡大の時期が遅く，高等教育レベル

の教育人口が増大する反面，初等教育を修了していない人口も多い。第3グループは，ボリビア，エルサルバドル，グアテマラ，ハイチ，ホンジュラスなどで，GNPおよび都市化の程度が低く，非識字率は20%を上回る。第4グループは，キューバ，ニカラグアで，低開発経済にもかかわらず，非識字率が低い。第3グループ以外は初等教育が一般に普及しており，男女の教育格差はグアテマラを除き減少しつつある。ペルー，ベネズエラ以外の諸国では，中等教育の女子就学率は男子と同じか上回る。高等教育で女性が専攻する分野は教育，保健などの伝統的に女性向きとされる分野が多い。男女の教育格差は初等教育において次第にせばまってきているが，農村と都市居住者の格差はまだ残っている。また，農村の先住民人口を抱える国では，多くの女性が非識字のままである。さらに，中等教育以上は，都市の中流階級以上の社会集団に属する女性が享受しているにすぎない。(King: 1993)

ラテンアメリカのなかでも国の経済レベルにより，女性の教育状況はおおいに異なる。また，一国のなかでも農村と都市，階層間で女性の教育レベルは様々である。各国別のフォーマル教育の状況は，出版されているものが少なく一般に入手しにくいが，各国政府機関により報告書が出されている。その背景には，国際婦人年メキシコ会議の世界行動計画のなかで女性の地位に関する調査，資料収集，分析が採択されていることと，国際的教育援助を必要とする諸国が，女性を対象としたプログラムの援助を獲得するために報告書作成が必要条件になっていることが大きな理由である。

女性の教育レベルの向上は，第三世界において人口増加の抑制や乳児死亡率の減少の鍵として重視されてきた。女性の地位の向上に教育レベルの向上が不可欠なものとして考えられてきた。メキシコ会議世界行動計画においても「文盲」の撲滅とそのためプログラムの優先が掲げられ，最も社会的に抑圧されている農村地域の女性にたいしフォーマル，ノンフォーマル教育のための施設の提供が決議されている。(1975年世界行動計画，第二委員会決議IX) こうした国際世論を背景として，教育レベルの向上が女性の地位向上へと導くという図式が公式化されてきた。しかし，実際に女性の就学率の増加

や中等，高等教育への参入は女性の地位の向上や社会進出にいかなる効果を与えたかに関する具体的な事例研究とその理論化は十分進んでいないのが現実である。

ミース，ヴェルホーフ，トムゼンの研究は，第三世界の女性が世界経済システムに組み込まれる構造と，第三世界そのものが女性化される過程を理論化した研究である。（ミース，ヴェルホーフ，トムゼン：1995）教育が高度に政治的であり，既存の教育がジェンダーの支配的イデオロギーを生産し，社会的支配を遂行していると考えるならば，経済レベルに対応するさまざまなジェンダー支配の機構が教育政策に形成されるという視点がフォーマル教育の分析に際し必要であろう。工業化のレベルが異なり，世界システムへ組み込まれる様式が異なるラテンアメリカ諸国において，また一国内においても周辺と中心に分断されている女性の教育状況を分析するためには，既成の識字，就学率という指標からさらに踏み込んだ研究が必要であろう。

(4) フォーマル教育

初等，中等，高等教育，技術教育における学校教育過程での女性の行動，学校教育で伝達される教育内容の検証，学校教育への参入と継続に与えるジェンダー的要因の分析など，学校教育の過程に関する研究は断片的であり，ジェンダー研究の理論的枠組みが教育学の体系の中に十分位置づけられているとは言いがたい。多様なトピックがあつかわれているが，個々の研究が断片的であり従来の教育の方向性を改革するための新しい枠組みはまだ見えていない。

初等教育における出席と学力の研究には，供給する側の学校教育の普及と質に関する研究と，需要の側である生徒および家族の必要や欲求に関する研究の２つに分類される。教師，教科書，カリキュラムなどは学校と関係した供給要因であり，家族の収入や教育レベルは需要側の要因である。こうした枠組みでの学校への出席や学力におけるジェンダー格差の研究が見られる。

学校への出席に関するメキシコの研究では，子どもに対する労働の要求が

就学を遅らせ出席を低下させることが報告されている。家族の低収入の影響は，男子生徒よりも女生徒の出席に大きな影響を与える。(Bowman and Goldblatt: 1984) ペルーの場合，両親の教育レベルが，男子と女子の学校教育に異なる影響を与えている。学校側の要因である教科書の供給や設備は，特に家庭において男子にくらべ教育機会が優先されていない女子生徒の就学を向上させるのに役立っている。(King and Bellew: 1989) ニカラグアの農村では，男子は女子にくらべ就学率が少ない。男子の就労機会が女子より多いためである。家族収入と親の教育レベル，特に母親の教育レベルが子どもの学校教育に影響をあたえている。(Wolfe and Behrman: 1984)

初等教育の教科書分析では，ジェンダーのステレオタイプが「隠されたカリキュラム」として学校教育において伝達されていることが報告されている。教科書では女性は，妻，母として描かれるか，職業では教師，看護婦，家事労働など伝統的性別役割があてはめられている。(Braslavsky, B. P.: 1981, C. Braslavsky: 1984b, Villa Lever: 1988) 中等教育の共学と別学における女子学生の学力の調査では，女性は男女別学の学校で高い学力を示している。共学の学校は，しばしば隠されたカリキュラムにより，女性の従属を助長するといわれているが，性別に関係なくともに学ぶことにより両性間の理解と平等な新しい関係を作り出す役割をはたすことが可能であり，女性の教育だけはなく社会一般に良い効果をあたえる。(Sara-Lafosse: 1992)

高等教育の研究では，コロンビアにおける女性の高等教育への参入 (Rodriguez: 1974)，コスタリカの高等教育の拡大と女性への影響 (Mendiola: 1992)，ペルーの大学における政治活動のフェミニズムの影響 (Stromquist: 1992)，メキシコ大学における女性学 (Bedolla y Bustos Romero et. al.: 1989, Galeana de Valades ed.: 1990) などのトピックがあつかわれている。

技術教育は，ブラスラブスキーによれば，人的資源論，開発主義の視点から取り組まれ，女性が労働市場に参加するための準備教育の役割を果たしてきた。女性の技術教育は，雇用者側の提供する職種に従って，ジェンダー化

された職種のための教育が行われてきた。女性の就学の方向付けとそれを修正するような構造的政策のないままに，女性の個人的能力実現の権利を認める労働分野は限定されている。(Braslavsky: 1984a)

しかし，こうした技術教育の方向を是正しようとする動きがある。ニカラグアの政府機関ニカラグア女性研究所（Instituto Nicaragüense de Investigaciones de la Mujer）が，UNICEF の資金援助を得るため，ニカラグアの女性のための教育政策と技術教育について教育計画を分析した報告書を提出している。一般基礎教育（初等教育の 6 年間）の最も大きな問題は，第一学年と第 2 学年の中退率が 50%近く，政府が目標としている最低 4 年間の基礎教育を保証するという基準が満たされていない。女性の就学率は増大しているが，この傾向は必ずしもジェンダーの文化パターンに変化を生み出したとはいえない。男性の徴兵が男女の就学パターンに影響をおよぼしている。また，女性の就学率の増大が職業，特に伝統的にジェンダー化された職業にたいする女性の参入パターンに変化をもたらしたとは言えない，とこの報告書は結論づけている。(Brendes, y Ortega Mendoza: 1988) この報告を受けてニカラグアでは，ジェンダー化された伝統的職種以外の職種に女性が進出できるような，女性を対象とした技術教育プログラムが立案され，実施されている。また，技術教育修了後の学習者の就職に関する追跡調査が行われ，労働市場における問題点が指摘されている。

(5) 女性の教育と労働市場への進出

1960 年代から女性のフォーマル教育の教育機会が拡大し，就学率が増大した。この教育上の現象が女性へどのような影響をおよぼしたかについて，女性の労働市場への参入と関連づけた研究は，ラテンアメリカの女性教育研究のなかでは最も活発に行われている。

女性の教育レベルの向上と労働参入の機会の増加に相関関係があるという研究として，1970 年代のチリの学校教育と労働について（Shiefelbein and Farrell : 1980）および，アルゼンチンとパラグアイの比較研究がある。

(Wainerman: 1980) チリでは，教育システムにおいて女性に対する差別が例外的になく，学校教育は男性同様女性にとって労働参入における最も有力な決定要因であると述べられている。しかし，調査では女性の専攻する教育分野は，教育，看護婦など伝統的に女性に適するとされる領域での就学パターンが多く，女性の労働分野や労働条件の男女格差については言及されていない。アルゼンチンとパラグアイの比較研究は，国民の教育レベルに差がある2ヶ国において，教育レベルと家族の状況が女性の労働にどのような影響をおよぼすか調査したものである。結果は，夫の有無，子どもの数，年齢といった家族環境は女性の労働参入に影響をおよぼしているが，個人の教育レベルは家族環境を抑えて女性の労働参加に影響を与えている。アルゼンチン，パラグアイの両国において教育レベルの高い女性ほど労働参加率は高くなる，と結論づけている。この研究は，公的統計を使用したフォーマルセクターにおける経済活動人口に依拠したものでしたものであり，必然的に女性の家計補助的農業労働や第三世界諸国に特有の都市におけるインフォーマルセクターの女性労働の問題は研究の視野にはいっていない。したがって，インフォーマルセクターで働かざるをえない教育レベルの低い女性は，経済労働人口から除外されている。

メキシコが債務危機に陥ったのを皮切りに，1980年代のラテンアメリカは多かれ少なかれ経済危機の影響を受け，ハイパーインフレーション，失業，農村から都市への移住にともなう都市化とスラム化，インフォーマルセクターの拡大など様々な問題が噴出し，福祉，教育予算の削減が女性の教育や社会進出に打撃を与えた。こうした社会状況を背景として，女性の教育と労働参加に関する論議も，1960年代の女性の教育機会の増大が労働参加におよぼした効果を懐疑的に見る傾向が強くなった。初等，中等教育における男性と同等あるいは男性より高い女性の就学率は，女性に社会的地位の向上と男性と平等の労働市場への参入を可能にしたのだろうか。この疑問に答えるいくつかの研究では，女性の教育レベルの向上は必ずしも女性の労働参入に結びついていない事例が報告されている。

中米の女性の教育と雇用に関するカタンサリーテの論文（Catanzarite: 1992）は，女性の教育レベルの向上が労働市場への参加を促進するという女性の教育と労働問題に先鞭をつけたボーウェンとフィネガンの論文（Bowen and Finnegan: 1966）にたいして，その結論がアメリカ合衆国の6歳以下の子どものいない女性に限定されると述べている。教育資源への参入の平等化は女性の労働資源への参入を増大させ，労働市場の性的二元主義を減少させるという内在的理論は存在するが，性差による労働市場での構造的相違は教育の質だけでは決定されない。統計的にみると，経済活動人口中の女性の教育レベルは一般の女性の教育レベルより高い。男女別の教育レベルを見ると女性は男性をやや下回るが，経済活動人口に属する女性は男性より教育レベルが高い。しかし，農業やインフォーマルセクターで働く女性を考慮すると，中米の女性の労働参加と教育の関係は，直線的な相関をしめすのではなく，平均的教育レベルの女性よりも教育レベルが低い女性と高い女性が労働参加の割合が高い曲線的相関を示すと述べている。また，高学歴の女性は安定した職業のなかで，女性が多い職業の低賃金化という性差別による不利益を被っている。インフォーマルセクターの活動はフォーマルセクターより賃金が低く，教育レベルと関係なく女性の賃金は男性より低い。中米において教育資源の獲得は，女性にとってより安定した労働参加と関係している。

コスタリカの高等教育改革が労働市場に与えた影響とそのジェンダー格差の事例研究では，1970年代初期に行われた高等教育改革でエリート教育から大衆教育への転換がなされたが，その前後の大学入学データをもとに1986年の労働市場の追跡調査を行った。大学教育の大衆化は，男女の就学パターンに影響をおよぼさず，改革は女学生の絶対数の拡大に貢献したが，就学パターンのジェンダー格差是正には結びつかなかった。特に，専攻領域のジェンダー格差が大きく，女性は職業上の障害が少ない非特権的領域を専攻する傾向がある。改革後，中流階級出身の女性にわずかながら専攻分野の選択に多様化が見られたが，それは専攻分野の選択において女性の階層化が

強化されたことを意味する。教育改革により多様な高等教育機関が形成されたが，その結果男女間の収入の差は改革後により大きくなり，労働市場にさらに大きなジェンダー格差を生み出した。(Mendiola: 1992)

教育機会，就学率の拡大という女性の教育資源への参入は，女性の労働進出と結びつく場合もあるが，そうでない場合もある。中産階級以上の特権的女性には教育レベルと労働参入に肯定的な関係が見られるが，労働市場において性差別がみられる。貧しく教育レベルの低い女性層は，生活のために低賃金で労働条件の悪いインフォーマルセクターに労働参入せざるをえない。インフォーマルセクターで女性に多い職種は，家事労働者であり，特権的女性層は安価な家事労働力を利用しながら労働市場に進出している。ラテンアメリカでは女性の労働参入において階層化が特に顕在化している。女性労働力の階層化と教育の問題を，再生産労働の収奪の視点から分析する必要があるだろう。

(6) ノンフォーマル教育

ラテンアメリカのノンフォーマル教育は，政府機関による成人を対象とした教育プログラムと非政府組織により組織されたプログラムがあり，学校教育外の社会教育として位置づけられている。1982 年までにラテンアメリカでは 23 ケ国で 1860 のノンフォーマル教育機関と，3069 のプログラムが確認されている。このうち女性を対象としたプログラムは，全体の 27.4%を占めている。(Braslavsky: 1984) 多くのラテンアメリカのフェミニストたちは，学校教育にフェミニズムを基礎とした論議を持ち込むのに困難さを感じていた。性差別は女性の潜在的な能力を制限し，学級内の階層化を強化するが，教育を改革する最初の努力はノンフォーマル教育から開始された。(Bourque: 1993)

女性を対象としたノンフォーマル教育プログラムは，参加調査による様々な事例が報告されている。それらのプログラムは，目的も教育方法も参加者の社会階層も多種多様である。ペルーのリマにある共同市場に協同組合を作

るため，女性の意識化を目的としてプログラムが組織された。共同市場の売り手の大部分を占める初等教育をほとんど修了していない女性たちを対象に，女性たちに人気のあるラジオドラマの再演活動とそのテキスト作りを通じ，女性の置かれた状況について討論を行うなかで女性たちが連帯意識を獲得していった。(Morero: 1987)

ホンジュラスの識字教育プログラムは，全国最大の農民組織が農業協同組合の組合員とその家族を対象に実施した農村開発プログラムで，プログラムへの女性の動員は主婦クラブを通じて行われた。農村女性は最も非識字率が高く，教育機会に恵まれていない。このプログラムでは，機能的識字教育の方法が採用され，教材の内容が重視され，読み書きと教材の内容に対する討論を通じた現状の把握と働きかけが重視された。しかし，女性のみを対象としたプログラムではなく，女性の識字指導者が少ないことが問題となっていた。女性は男性との討論のなかで発言することは難しく，女性にとって機能的識字の方法は十分生かされなかった。(CESO: 1990)

識字と公民教育のプログラムは，ペルーの農村の3つの村落の女性を対象に計画された。女性の権利と市民としての義務について学習し，実生活のなかで応用することを目的とした。現実に対する判断力，特に農村の女性が果たしている伝統的役割にたいする批判的能力の開発が識字教育を通じて行われた。プログラムの成功は，各村落での女性の組織化のレベルによって左右された（Nuñez: 1990）

その他，共同食堂，パンの製造，家庭菜園，大豆プログラムなどの食料供給活動を通じた意識化教育や売春婦更正教育プログラムなど，地域の現状に対応して組み立てられた多様なプログラムの報告がある。(Cheuca: 1989, Proyecto INSSBI-CAV: 1987) これらのプログラムは，参加調査による対象地域の調査が重要で，プログラムの対象である女性の直面する問題をいかにすくい上げ，プログラムの運営に活用できるかが成果を左右する鍵となっている。最近では，女性を対象としたノンフォーマル教育プログラムのテーマとして，性暴力や家庭内暴力が取り組まれている。

教育プログラムでの女性の活動が家事労働とインフォーマルセクターの経済活動を通じた家計への貢献を含む家族の生活向上に特定される場合，ノンフォーマル教育は効果を発揮する。教育プログラムを通じ，女性は自信や自己決定の能力を獲得する。ノンフォーマル教育プログラムの評価は，「家族の健康や生活の向上，経済状態を引き上げるための家庭菜園，手工芸，裁縫，パンづくりなどの生産活動は，女性の人間形成よりも，女性に伝統的な役割を維持するようしむけた」という批判的なものから，「女性の置かれた状況を向上させる積極的役割をはたした」という肯定的な評価まで，プログラムによって様々に分かれる。女性を対象としたノンフォーマル教育プログラムの方法論，プログラムの体系化と教育の理論化の試みはまだ開始されたばかりである。フィンクは，ラテンアメリカのノンフォーマル教育のなかで「民衆教育」と名付けられた，非政府組織による教育運動における女性を対象としたプログラムの意義について理論化を試みている。民衆教育は，教育領域においては，参加的，平等主義的であり，対象となる社会セクターのなかに批判的社会意識を形成し，参加者の伝統，知識，経験と新しい技術の伝達という2つのレベルの知識を参加者の訓練に結びつけている。社会的領域においては，女性，失業者，農民，先住民集団など周縁的集団を対象とし，社会運動の構築と社会の変革を目的としている。特に女性を対象とした民衆教育プログラムは，家庭を維持する女性の生活に直接影響を与えた経済危機を背景に，共同炊事，こどもの健康，衣服の供給など女性の日常生活に密着した緊急課題に応えながら，個々の家庭のなかで孤立しがちな女性が教育と社会活動を通じて連帯し，自己の社会的有用性を認識することを意図している。民衆教育の課題は，ミクロレベルの草の根運動から出発し，身の回りの問題を取り上げながら，マクロレベルの社会変革への方向性をめざすというギャップを克服することである。身近な再生産労働にかかわる活動から出発し性別役割分担を打開するジェンダー意識の変革をいかに達成するか，そして批判的思考の開発と生活技術の改善の間の溝をどのように埋めつつ活動を実践するかが大きな問題となっている。これらのプログラムは，こうした課題を

克服し意識化教育が機能するならば，女性の私的領域から公的領域への活動の架け橋となる大きな可能性をはらんでいる。(Fink: 1992)

お わ り に

ラテンアメリカの女性教育研究は，第三世界と工業化社会にまたがる様々なテーマを内包している。資本主義と家父長制は表裏の関係にあり，経済発展のレベルによって女性の資本主義システムへの統合の様式は異なる。ラテンアメリカ諸国は，多様な経済レベルにあり様々な歴史的発展をたどっている。また，国内においても様々な形態の経済的統合が同時進行している。個々の経済レベルに応じた女性の世界システムへの統合の形態を把握し，そのなかで教育システムがどのような役割を担っているのかを明らかにする必要があろう。このように女性教育を分析する上で，女性教育の歴史認識は不可欠なものである。ラテンアメリカの女性教育史研究は植民地時代を中心に開始されたばかりであり，近代から現代にいたる通史的研究が待たれる。

地域的に見ると，ラテンアメリカの女性教育研究は，メキシコ，中米のコスタリカ，ニカラグア，南米のチリ，アルゼンチン，ベネズエラ，ペルーに関する研究が多く，教育資料的にも調査条件が整いやすい地域の研究が多いことは否めない。カリブ海域は，女性教育の研究は現状把握にとどまっている。こうした地域的研究のばらつきを埋めながら，ラテンアメリカ諸国の歴史および経済発展の差異を明確にした上で，ラテンアメリカの地域的な歴史，社会，文化的共通性を普遍化する試みが教育研究のうえでも必要だと考える。

ラテンアメリカでは，政治と教育が緊密な関係にある。政治的変化が教育政策の全面的転換をもたらす場面がしばしば存在した。こうした教育文化のなかで，教育システムはどのように変化してきたのか，またどのような変化を女性にもたらしたのかを明らかにする必要があろう。学校教育において，ジェンダー意識の変革の道程はまだ遠いように思われる。ラテンアメリカのフェミニズム運動が教育システムに影響を与えうるとするなら，どのような空間においてまた方法において可能なのか，フォーマル教育とノンフォーマ

ル教育の両面からの研究も重要である。

注

(1) アルゼンチンで1976年から83年の軍政下で行方不明になった息子たちの身を案じ，軍政の人権抑圧に抗議した母親たちの運動。新聞広告による告発やそのため募金運動をして運動を展開し，人権抑圧を国際的にアピールし，民政移管を促した草の根運動として評価されている。こうした人権抑圧に抗議する行方不明者の母親たちの運動は，チリ，エルサルバドル，ニカラグアなど軍事政権の人権抑圧が激しい地域で展開された。

参考文献

Arrom, Silvia Marina,
1985 The Women of Mexico City, 1790-1857, Stanford University Press.
Aizpuru, Pilar Gonzalbo
1985 La Educación de la Mujer en la Nueva España, Caballito.
1987 Las Mujeres en la Nueva España: Educación y vida cotidiana, el Colegio de México.
Aizpuru, Pilar Gonzalbo coordinadora
1985 Familias Novohispanas. Siglo XVI al XIX, el Colegio de México.
Bedolla Miranda, P. y Bustos Romero, O. L. et.al.
1989 Estudios de Genero y Feminismo, distribuciones Fontamara, México.
Bowen, William G., and Finnegan, T. Aldrich
1966 "Educational Attainment and Labor Force Participation.", American Economic Review, vol. 65, no. 2, p. 567-582.
Bowman, Mary Jean, and Goldblatt, P.
1984 "School Attainments in a Development Perspective: Transition Patterns in Mexico" Working Paper Series 84-6, University of Chicago.
Braslavsky, Berta P. de
1981 La Lectura en la Escuela de América Latina, UNESCO-CEPAL-PNUD, Buenos Aires.
Braslavsky, Cecilia
1984a Las Mujeres y la Educación en América Latina y el Caribe, UNESCO. (Unpublished)
1984b Mujer y Educación: Desigualdades Educativas en América Latina y el Caribe. Oficina Regional de Educación para América Latina y el Caribe, Santiago.
Brendes, Wia Bos y Ortega Mendoza, Enma
1988 La Mujer en la Educación Formal en Nicaragua: Año 1980-1987, INIM, Managua (Unpublished).

Carnoy, Martin and Samoff, Joel,
1990 Education and Social Transition in the Third World, Princeton University Press, Princeton.
Carreras, Mercedes
1989 "Mujer y Educación: Relación de los diversos enfoques desde la investigación educativa" en Lucía Mantilla compilador, La Mujer Jalisquense: Clase, género y generación, Universidad de Guadalajara.
Catanzarite, Lasa
1992 "Gender, Education, and Employment in Central America: Whose Work Counts?" , in Stromquist ed. Women and Education in Latin America, p. 67-84.
CESO
1990 Alfabetización y Mujeres, Honduras.
Chueca, M. Marcela, Días , A. Estrella y Pérez, A. Paola
1989 Las Mujeres y la Alimentación Popular: ¿Una Experiencia Práctica de Liberación Feminina?, CELATS, Lima.
Conway, Jill Ker and Bourque, Susan C.
1993 The Politics of Women's Education: Perspectives from Asia, Africa, and Latin America, The University of Michigan Press.
Elliott, Carolyn M. and Kelly, Gail P.,
1980 "Introduction: Perspectives on the Education of Women in Third World Nations" , Comparative Education Review, p. 1-12.
Fink, Marcy
1992 "Women and Popular Education in Latin America", in Stromquist ed. Women and Education in Latin America, p. 171-193.
Galeana de Valades, Patricia ed.
1990 La Teología de Mujeres Universitarias, UNAM, México.
Kelly, Gail P. and Slaughter, Sheila ed.
1991 Women's Higher Education in Comparative Perspective, Kluwer Academic Publishers, Dordrecht/Boston/London.
King, Elizabeth M. and Bellew, Rosemary
1989 "Gains in the Education of Peruvian Women, 1940-80" , Policy Research Working Paper 472, World Bank, Washington, D. C.
King, Elizabeth M. and Hill, Anne M.
1993 Women's Education in Developing Countries: Barriers, Benefits, and Policies, The Johns Hopkins University Press.
Lavrin, Asunsión

1966 "The Role of Nunneries in the Economy of New Spain in the 18th Century, Hispanic American Historical Review, vol. 46, no. 6.
1979 "Dowries and Will: A View of Women's Socioeconomic Role in Colonial Guadalajara and Puebla, 1640-1790", Hispanic American Historical Review, vol. 59, no. 2. p. 280-304.
1995 Women, Feminism, and Social Change in Argentina, Chile, and Uruguay, 1890-1940, University of Nebraska press.

Lavrin, Asunsión ed.
1978 Latin American Women, Greenwood press, Westport.
1989 Sexuality and Marriage in Colonial Latin America, University of Nebraska Press.

Martinez-Alier, Verena,
1974 Marriage, Class and Colour in Nineteenth-Century Cuba, Cambridhe University Press.

Melo Rodriquez, S.
1974 La Participación de la Mujer en el Proceso de la Educación Superior en Colombia, Bogotá: Universidad Juveriosa.

Mendiola, Haydée, M.
1992 "Gender Inequalities and Expansion of Higher Education in Costa Rica", in Stromquist ed. Women and Education in Latin America, p. 125-146.

Moreno, Rosa María Alfaro
1987 De la Conquista de la Ciudad a la Apropiación de la Palabra: Una experiencia de educación popular y comunicativa con mujeres, TAREA, Lima.

マリア・ミース，C. V. ヴェルホーフ，V. B. トムゼン，
1995年　古田睦美，善本裕子訳，「世界システムと女性」，藤原書店。

Muriel, Josefina
1974 Los Recogimientos de Mujeres: respuesta a una problemática social nobohispana, UNAM.
1992 Las Mujeres de Hispanoamérica:época colonial, Editorial MAPERE.

Nuñez, Pilar
1990 Alfabetización y Educación Civica: Experiencias con Mujeres Campesinas en Perú, UNESCO/OREALC, Chile.

Pineda, Magaly
1986 "Feminism and Popular Education: A Critical but necesary Relationship". In ISIS International (ed.), Women, Sturggles and Strategies: Third World Perspectives. Rome, p. 111-113.

Proyecto INSSBI-CAV

1987 Prostutución en Nicaragua: Una experiencia de Educación 1983-1986. (unpublished)

Russel-Wood, A. J. R.

1977 Women and Society in Colonial Brazil", Journal of Latin American Studies 9 (May): 225-34.

Sara-Lafosse, Violeta

1992 "Coeducational Settings and Educational and Social Outcomes in Peru. "in Stromquist ed. Women and Education in Latin America, p. 87-105.

Schiefelbein, Ernesto and Farrell, Joseph P.

1980 "Women, Schooling, and Work in Chile: Evidences from a Longitudinal Study", Comparative Education Review, vol. 24, no. 2, Part 2, (June), p. 160-180.

Stromquist, Nelly P.

1990 "Women and Illiteracy: The Interplay of Gender Subordination and Poverty", Comparative Education Review, vol. 34, no. 1, February, p. 95-111

1992 "Feminist Reflections on the Politics of the Peruvian University" in Stromquist, Nelly P. ed., Women and Education in Latin America.

Stromquist, Nelly P. ed.,

1992 Women and Education in Latin America, Lynne Reinner Publishers, Boulder & London.

Torre, Carlos,

1990 The Politics of Nonformal Education in Latin America, New York, Praeger.

Tuñón Pablos, Enriqueta

1991 El Album de la Mujer: Antlogía ilustrada de las mexicanas, Vol. 1 Epoca prehispánica, Instituto Nacional de Antropología e Historia.

Vaughan, Mary K.

1961 "Women, Class and Education in Mexico, 1880-1928", Latin American Perspectives 4 (Winter-Spring): 135-52.

Vega, Jose J. y Mareia

1989 América Virreinal: Educación de la Mujer 1503-1821, Editorial Jus S. A., México.

Villa Lever, Lorenza

1988 Los libros de texto gratuitos, Universidad de Guadalajara (Colección Libros Tiempos de Ciencia)

Wainerman, Catalina H.

1980 "The Impact of Education on the Female Labor Force in Argentina and Paraguay", Comparative Education Review, vol. 24, no. 2, Part 2, (June), p.

180-195.
Wolfe, Barbara and Behrman, Jere R.
1984 "Who Is Schoolings, Sex, Residence and Family size." Economics of Education Review 3(3): 23-45.